

みゅーず

藤井寺高等学校 図書委員会発行 2019.7.19



そろそろ夏本番も近づいてきました。

夏休み、家で好きなことをするのも素敵ですが、
本を読む時間を設けてみませんか。

映画化した有名作品や、隠れた名作など、
自分の未知なる世界と触れ合う機会になると思います。

是非、本の世界に足を踏み入れてみてください。
図書室でお待ちしております。



推薦図書



「また、同じ夢を見ていた」 住野よる著

—きっと誰にでも「やり直したい」ことがある—

「人生とは～」が口癖の少女が3人の女性との出会いの中で『幸せとは何か』自分の答えを見つけていく物語。主人公の口癖が秀逸で面白く、読みやすかったです。終盤の伏線回収が鮮やかで読んでいて楽しい1冊でした。読み終わったときに幸せとは何か考えさせられました。“今”がうまくいかない全ての人に送る物語。

推薦者 図書委員

「永遠の0」 百田尚樹著

戦後75年、日本はかつてアメリカと戦ったという事実さえ知らない若者が多い。これは戦争当時、世界一の戦闘機と言われた「零戦(ゼロ戦)」乗りの祖父「宮部久蔵」の生き様を調査する佐伯健太郎の物語である。名パイロットと言われた祖父は、何故生きることには臆病なまでに執着したのか。そして、なぜ終戦数日前に“特攻”で死んでいったのか。決して戦争を賛美することなく、あの時代を駆け抜けた人々の愛と苦悩を描いた感動作。戦争＝悪というステレオタイプではかき立てることができない生きてきた人間の証がそこにある。平和な今の時代だからこそ、ぜひ君たちに読んでほしい作品。



推薦者 香川経子先生



「狛犬ジョンの軌跡」 垣根涼介著

命を助けられた黒犬と青年の共同生活を描く。
ジョン(犬)の眼差しを通じて物語は進む。
大人のファンタジー。

この物語を読んだあと、神社にある狛犬の見方が変わります！
犬好きな人はぜひ読んでほしいです。

推薦者 佐野貴美先生

「深夜特急」 沢木耕太郎著

お金は無い、予定は無い、あるのは時間だけ。そんな若者が何を思ったか一人で世界一周に行くことに。それも飛行機ではなく、バスで。もちろん、英語はまったく話せない。

「小説なんて、誰かが考えた作り話じゃないか」と思っている君。これは誰かの作り話ではなく、実際にあった話、ドキュメンタリー。お金も知識も無い一人の若者が、いろいろな経験をしながら成長していく姿が描かれている。ぜひ、一読を！

推薦者 松井治樹先生



編集後記

今年初のみゅーずということで、これからの指針となれるよう
三年図書委員ふたりで頑張りました。
これをきっかけに、図書室を利用してもらえたら嬉しいです。

夏休み中の開館日と開館時間

		月	火	水	木	金	土	日
7 月						19	20	21
		22	23	24	25	26	27	28
		29	30	31				
8 月		19	20	21	22	23	24	25
		26	27	28	29	30	31	
		開館時間	7/19～7/31		9：00～12：00		国語科 香川経子先生	
			8/20～8/30		12：00～15：00			
		※ 貸出しは、1人7冊まで						

